

日本最長の「私道」

JJ1SXA/池

「私道」というと、住宅と住宅の間にあるような、ごく短い生活道路を想像しますが、日本には長さが30km以上にも及ぶ私道が山口県に存在します、おそらく、日本最長の私道でしょう。

宇部興産(株)の専用道路で、長さ約1kmの「興産大橋」を含み総延長は31.94kmになり、一企業が所有し専用で使用している道路としては、日本で一番長いようです。

宇部興産は、約120年前に山口県宇部市の炭鉱組合からスタートし、現在は化学製品、セメント等を扱っているメーカーで、専用道路はこのうちセメント事業の設備で、美祢市の石灰石鉱山に隣接する伊佐セメント工場で加工したセメントの中間製品「クリンカー」などを、臨海部の宇部セメント工場に運ぶための道路として、1968(昭和43)年から14年の歳月をかけて開通させています。

走る車両は超大型で、走行するには社内で講習を受けてライセンスを取得しなければならず、70km/hの制限速度をはじめとするルールは細部まで厳格に定められ、パトロール業務の担当者が常時、取り締まりを行っていてスピード違反には通行証没収といったペナルティーが設けられているようです。

クリンカーを運ぶ、1編成で80tを積み込める2両編成の大型トレーラーである「ダブルストレーラー」のほか、いわゆる10tダンプ、バルク車、ダンプトレーラー(20t、27t)、タンクローリーなどが走っているが、このうちダブルストレーラーは急停止などができないことから、専用道路では最優先とされているようです。

ダブルストレーラーは道路交通法、道路法によって定められている大きさを超えるので、一般の公道を走行することはできないのは当然ですが、80t積みとは恐れ入ります。

ルート中最大の難所の興産大橋の上り坂は100メートル進む間に6メートル高度が上昇する急勾配です。

ギアは15速(ギアは16速まで備えている)、時速70キロで上り始め、速度とエンジン回転数を合わせる神ワザ的なシフトダウンを繰り返し、八分目までに7速までギアを落とし、時速15キロで80トンの荷物を引っ張り上げます。

遮断機が下りると巨大なトレーラーが走り抜ける、日本でも珍しい道路の踏切ですが、ここを走行するダブルストレーラーは全長30メートルの車体に80トンもの荷物を積んで朝6時半から夜10時まで運行され、1日の走行距離は700キロメートルに達します。

その巨体と機能美を追及した美しい車体デザインはテレビで等でも良く知られていますが、運行システムについてはあまり知られていません。

車両には最先端IT技術を投入した「特大車ランシステム」が搭載され、ETCセンサーと無線LANによって車両の運行が管理されています。

また、経路上に何箇所かの交差点がありますが、ダブルストレーラーがスムーズに通過できるように、このシステムによって信号のタイミングが自動で調整されています。

さらに、道路上にはチェックポイントが設置され、運行計画に従って通過時刻が設定されます。

ドライバーはチェックポイントを定められた時刻から秒レベルの誤差で通過する運転テクニ

ックでトレーラーを操り、運行時刻の正確さについては新幹線にも決して負けていませんとのこと。

また、80トンもの石灰石の積込み、荷下ろしはいずれも最短わずか3分で行うことができ、巨体のイメージとは全く違った、非常に緻密で繊細な運行を行っています。



80t積みダブルストレーラーの威容、ナンバープレートは独自の物がついている。

